編輯室の内外

蜩は夏の終りを告げてゐても帝都は矢張り焦熱地獄、夫れでも編輯はいつものやうに有益な資料を以て充滿されてゐる、經濟學界の權威者瀧本博士や、市政の劇務に日夜奔走されてゐる菊池愼三氏等が、特に本誌の爲に筆を執られたことは讀者と共に頗る滿足する所である、毎月寄稿されてゐる京都大學の篤學者和田篤憲君の研究なぞは恐らく他誌に見ることの出來ない事であらう、同君の道路の交通史に關する權威は既に世評の存するところで今更事新らしく言ふの要は無いが、夫等の研究物を登載するを得るに至つたことは、本誌が唯だ道路を改良すると言ふやうな舊時の路政感を超越して、道路交通の經濟的領域にまで進展し來つたことを物語る。技術部の發表してゐる設計資料も亦我國に於ける新らしき試として技術界から多大の賞讃を博してゐる、此のやうに本誌が月毎に新領域を開拓し得て行く、其の裏には常に讀者の有力な後援のあることに因るのであつて、編輯同人は頗る滿足する。

失業救濟の爲に道路を改良せよとは、豫て本會が主張して關係大臣にまで建議したところであつたが、漸次失業が深刻化して來たので、政府も此問題を重視するやうに爲つて國道の改良を政府が直轄施行すると言ふ噂を聞くに至つた、農村救濟の爲やら失業救濟の爲に民間事業やらに低利資金を貸付するのも結構であろうが、資金を融通したゞけでは一部階級者を喜ばすだけで未だ不景氣乃至失業の直接の救濟には爲らぬ夫れよりは本會の言に從つて都市や地方に散在する重要道路を改良することが賢明である、希くは噂に終らないやうに當局の反省を求むる。

丹波浪人が、前月誌上に書いた土木部課長の異動評には隨分抗議があつた、併し浪人が例の調子で直感し想起して書いた迄で其責任やら乃至は報復は本會と何等の關係はない筈、であるから之が爲に本會々務の執行を感情的にやらないやうに願ひたい、尤も浪人も此頃は老人―浪人になつて此處彼處で譴責やら懲戒を喰つてゐる、若し萬が一にも本會の責を問はるゝ士がありとすれば、夫れは浪人が例の調子の仕業として水に流して貰ひたい。

毎號お斷りしてゐるやうに本月號も亦、折角の玉稿を登載し得なかつたものが頗る多い、殊に毎月連載した平山泰治君の原稿を來月に廻さなければならぬことに至つたのは恐縮する。

本誌定價　五十錢
一ヶ年分　金六圓

東京市麴町區大手町一丁目內務省內
發行所　社團法人　道路改良會
發行兼編輯者　小島效
東京市芝區愛宕町三ノ二二
印刷所　東洋印刷株式會社
印刷者　牛丸勝三郎